

予算決算委員会会議録

1. 開催年月日

令和2年 9月24日 開会 9時58分 閉会 13時29分

2. 開催場所

全員協議会室

3. 出席委員名

妹尾文彦	多賀信祥	柳原英子	山下憲雄
細羽敏彦	西村慎次郎	荒木謙二	柳井一徳
惣台己吉	三宅文雄	藤原浩司	上野安是
竇戸利昭	西田久志	三輪順治	大滝文則
宮地俊則	佐藤豊		

4. 欠席委員名

なし

5. その他の会議出席者

(1) 議長 坊野公治

(2) 説明員

副市長	猪原慎太郎	総務部長	山下浩道
市民生活部長	井口勝志	健康福祉部長	佐藤和也
未来創造部長	唐木英規	建設部長	岡本健治
水道部長	飛田圭三	病院事務部長	田平雅裕
総務部次長	藤原雅彦	市民生活部次長	藤井清志
健康福祉部次長	沖津幸弘	未来創造部次長	田中大三
建設部次長	西田直樹	水道部次長	土屋光史
病院事務部次長	一安直人	未来創造部参与	久安伸明
会計管理者	竹井博範	財政課長	片井啓介
税務課長	吉本泰人	協働推進課長	川上益史
環境課長	谷みち子	健康福祉部参事	原田恒司
介護保険課長	谷本充浩	農林課長	中山浩一
上水道課長	津組勇一郎	美星支所長	伊達卓生
総務課長補佐	伊藤圭史	市民課主幹	岩本陽子
上水道課長補佐	内田佳孝	商工課商工労政係長	佐藤友泰

建設課管理係長	多田豪義		
教育長	伊藤祐二郎	教育次長	北村容子
学校教育課長	平木康晴	生涯学習課長	成智千恵
スポーツ課長	立花計志	文化課長	高田知樹
給食センター所長	井岡和浩	市立高校事務長	毛利恵子
教育総務課長補佐	亀田博行		

(3) 事務局職員

事務局長	和田広志	事務局次長	藤原靖和
------	------	-------	------

6. 傍聴者

(1) 一般 0名

(2) 報道 0名

7. 発言の概要

委員長（藤原浩司君） 皆さんおはようございます。

ただいまから予算決算委員会を開会いたします。

学校教育課長（平木康晴君） おはようございます。

昨日の補正予算の説明の中で、お伝えした内容に誤りがありましたので訂正させていただきます。

一般会計補正予算書の32・33ページの55款教育費、20項小学校費、15目教育振興費で、就学援助の対象の児童数を要保護、準要保護児童合わせて183名とお伝えをしましたが、この予算の対象は準要保護児童の181名でした。おわびして訂正させていただきます。大変申し訳ありませんでした。

委員長（藤原浩司君） 本日は、昨日の続きの一般会計、特別会計、財産区会計、企業会計の決算を審査いたします。特別会計、財産区会計、企業会計の審査の順は、総務文教委員会関係分、市民福祉委員会関係分、建設水道委員会関係分の順で審査を行いますので、よろしく願いいたします。

〈認定第1号 令和元年度井原市一般会計歳入歳出決算について〉

〈歳出第55款 教育費中、第10項教育総務費から第50項幼稚園費〉

〈なし〉

〈第55款 教育費中、第60項社会教育費〉

〈なし〉

〈第55款 教育費中、第70項保健体育費〉

〈なし〉

財政課長（片井啓介君） 昨日の歳入の説明におきまして、1点修正をさせていただきたいと思います。

多賀委員のほうから71・72ページの地方特例交付金、子ども・子育て支援臨時交付金の予算額と収入済額の差についてお尋ねがございました。その際の回答としましては、予算は年間分を見ていたと申し上げましたが、これは私の誤認でございまして、正しくは予算では保育料無償化による減収分の全額を臨時交付金として計上しておりましたが、実際のところ保育料の無償化に係る負担が国が2分の1、県が4分の1、市が4分の1となっておりまして、市の4分の1部分についてこの臨時交付金で交付がなされております。残りの国負担分、県負担分につきましては、82ページ及び90ページの保育園委託費等負担金、こちらに上乗せをして交付をされておったということで予算額との差が出ております。トータルとしましては、おおむね同じ収入となっております。

以上、おわびして訂正をいたします。大変失礼いたしました。

〈第60款 災害復旧費〉

委員（惣台己吉君） 教育施設補助災害復旧費の件で、学校が2校、大江小学校と井原中学校があるわけですが、これの大江小学校はグラウンドのほうと2か所あると思うんですけど、片方のやつだけですか、これは。2か所。1か所は、ブルーシートで手つかず。

教育次長（北村容子君） 今、惣台委員がおっしゃられました大江小学校、このブルーシートというのは今年度のことでございましょうか。

委員長（藤原浩司君） 今年度のことで、まだです。

委員（惣台己吉君） はい、了解しました。

〈なし〉

〈第65款 公債費から第80款 予備費〉

〈なし〉

〈歳出全般についての総括質疑〉

委員（山下憲雄君） 質問がずれているかもしれませんが、今回の実質収支なんかでもここでお尋ねしてよろしいですか。

委員長（藤原浩司君） 実質収支は、その次で行います。

委員（山下憲雄君） はい、了解しました。

〈なし〉

〈実質収支に関する調書及び財産に関する調書の説明〉

委員（山下憲雄君） 273ページの実質収支に関する調書のことでお尋ねいたしますが、令和元年度の実質収支は5,764万8,000円で、その前年度が2億9,858万6,000円だったわけですが、これは単年度収支でマイナスになっておるんですけども、差引きマイナスになるんですが、これの主な要因について説明をいただきたいと思っています。

財政課長（片井啓介君） 平成30年度は7月豪雨の関係がございまして、工事請負費等、歳出の執行を見送っているものがございまして、収支としましては執行残等が多く残っていたということがございます。その差になろうかと思えます。

委員（山下憲雄君） ということは、言わば単年度でこれはまたプラスに戻るといふふうに考えてよろしいですか。

財政課長（片井啓介君） プラスになるように努力はしていきたいと思いますが、予算の執行等、今新型コロナウイルス感染症の関係もございまして、今後そういったところは気をつけて取り組んでいきたいと思っております。

委員（山下憲雄君） あわせてもう一つ、284ページの基金についてご質問をいたします。

それぞれ基金があるんですけども、まずこれの現金が100億円以上あるわけですが、これに関しての運用は基金ごとでしょうか。運用について、どこか一括管理して、例

えば当座預金とかあるいは国債とかいろんな運用の仕方があると思いますが、何か特に工夫されていることがあるのかなのか、そこら辺をお聞かせください。

総務部長（山下浩道君） 基本的に、基金ごとに運用しております。

委員（山下憲雄君） 事務量も当然基金ごとだと増えると思いますし、一括して、それぞれの台帳は別にあると思いますから、運用としての工夫というのはこの財政難の中で当然考えていけないといけないと思うんですけれども、その辺について今後の思いはありますか。

総務部長（山下浩道君） 今も基金が30ほどある中で、一部では井原市基金として合同運用しているものもあります。大きなお金を動かすとそれだけ利子もたくさんつくというような要素があります。複数の基金で合同運用して、年ごとについた利子につきましては元金の度合いに応じて各基金に分配するという手法も取っております。また、そういったもので、長期の国債といいますか、いわゆる20年国債、30年国債、利回りのよいものを求めていく場合もありますし、県下15市でも連絡会議を行いますけれども、そういう方向性には徐々にシフトしてきております。また、そういった方向で取り組んでまいりたいと思います。

委員（山下憲雄君） ぜひよろしくお願ひしたいと思いますが、これは質問が不適切だったら却下していただいたら結構なんですけど、これについては当然監査を受けておられると思うんですけれども、現金というのは各預金、基金ごとに口座、預金通帳なりあると思うんですけれども、それというのは監査委員は台帳で管理されるんでしょうか。いわゆる銀行通帳というんですか、それを見て管理をされるんでしょうか。

総務部長（山下浩道君） 毎月の例月の監査におきまして、台帳と、それから毎月末の通帳ごとに監査して確認をしていただいております。

〈なし〉

〈一般会計全般についての総括質疑〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第10号 令和元年度井原市大倉財産区会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（宮地俊則君） 422ページ、上のほうで、負担金補助及び交付金で、保護料交付金というのが、50万円ほどですが、初めて聞く言葉なんですが、保護料交付金というのはどういったものなのでしょうか。

美星支所長（伊達卓生君） 保護料交付金とは、実質地元の草刈りをした費用です。

委員（宮地俊則君） 地元の方に草刈りをしていただいて、その地元の方々に交付する金額ということですね。

美星支所長（伊達卓生君） はい、そのとおりでございます。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第11号 令和元年度井原市東水砂財産区会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第12号 令和元年度井原市宇戸財産区会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第2号 令和元年度井原市国民健康保険事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（妹尾文彦君） 300ページなんですけれども、特定健診ですが、2,069人が受けられたというんですけど、対象の人数は何名になりますか。

市民生活部次長（藤井清志君） 特定健診のほうですけれども、対象者は6,168人です。

委員（妹尾文彦君） これは、井原市の目標が42%というのが、去年と変わってなければそうだと思うんですけど、それに対してはどれぐらい、何%になるのでしょうか。

市民生活部次長（藤井清志君） 特定健診の受診率の目標値につきましては、井原市特定健康診査等実施計画で定めております。令和元年度の目標が48%になるんですけれども、この受診率のほうは41.54%で目標に達していないという状況でございます。

委員（妹尾文彦君） 去年より受診率は上がっているのでしょうか。

市民生活部次長（藤井清志君） 昨年の受診率が40.3%ですので、少し上がりました。

委員（妹尾文彦君） 去年より少し上がっているということで、前年度に何か特別なことをしたということはいかがでしょうか。

市民生活部次長（藤井清志君） 特に変わったことはしておりません。対象者に個別に電話等で受診勧奨をしたり、チラシ・パンフレット等で啓発をしたりしたという状況でございます。

委員（宮地俊則君） 考え方をお尋ねいたします。

297ページの下段、保険給付費で、15目退職被保険者、ここに限らず不用額等の対象となる退職被保険者数が少なかったと。療養給付費等が少ないのは大変いいことであると思うんですが、対象者が、退職被保険者数が少なかったというのは、市民の年齢の構成比からすればある程度予測がつくのではないかと思うんですが、予算を組まれるときに、そこら辺の、今までの流れから来年度あたり対象者はこれぐらいだろうというところまで加味されて予算が組まれているのかどうか、その辺をお尋ねしたいんですが。

市民生活部次長（藤井清志君） 予算を編成する際に、各3年間の給付額の平均を求めて、そこからはじいておるところでございます。被保険者数の減少というのは、特に退職につきましては平成27年度から新規の認定をしておりませんので、あとはもう減るだけというふうなことなんですけれども、このあたりの平均で求めるのがいいのかという手法につきましては今後の検討が必要かというふうに考えています。

委員（宮地俊則君） 確かに、給付費が減っていくことはいいことだと思います。ただ、予算を組まれるときに、想定されるのが減っていくだろうというのを同じように予算が組まれるというのはやはり問題かなとも感じますので、その辺の減少を加味された予算編成をお願いしておきたいなというふうにも思います。

委員（山下憲雄君） 306ページの実質収支に関する調書について質問ですが、令和元年度の実質収支額が3億2,178万7,000円ですけれども、これは非常に悪化していると思うんですが、その前の年の平成30年度が、3億8,318万9,000円でありますけれども、これが構造的なものであるか、そこら辺の見解をお聞かせください。

市民生活部長（井口勝志君） 令和元年度の歳入歳出の差引きが前年度よりも減っているということでございます。こちらにつきましては、毎年度予算をつくる時に岡山県のほうから医療費の動向などによりまして標準の保険料率を示されるわけです。令和元年度につきましては、前年度と比較すると少しアップですよという通知が来ておりました。しかしながら、前の年の繰越しが3億8,000万円少々ございましたので、保険料率を前年度並みに据え置いたということで、当初予算の中でそこを埋めるだけの9,000万円ぐらいはかかるのではないかとということで、財源として前年度繰越金を充てておりました。その分が、結果的には9,000万円までは要らず、六千数百万円ぐらいで収まったというようなことです。実質的には、単年度でいきますと減っておりますけれども、これは保険料率を据え置いたことによるものでございます。

委員（山下憲雄君） 要するに今後、構造的につながってマイナスを生んでいくようなものではないという理解でよろしいですか。

市民生活部長（井口勝志君） 令和元年度につきましてはそういう方針を定めましたの

で、前年分と同率ということといたしました。これにつきましては、毎年度岡山県のほうから医療費の動向等によりまして標準保険税率等が示されるわけですので、それによりまして、協議しながら、上げる場合もありますし、据置きとかというようなこともあろうかと思いますが、年度の動向によりまして、協議しながら決定をしていきたいというふうに考えております。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第4号 令和元年度井原市住宅新築資金等貸付事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第5号 令和元年度井原市後期高齢者医療事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第7号 令和元年度井原市介護保険事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第14号 令和元年度井原市病院事業会計決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第3号 令和元年度井原市簡易水道事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第6号 令和元年度井原市公共下水道事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（簀戸利昭君） 355ページの施設管理費の中の光熱水費が3,900万円余りかかっていますが、水道料金と電気料金は別々に分かりますでしょうか。

水道部次長（土屋光史君） その件につきましては、手持ち資料がございませんので、お時間をいただければと思います。

委員（簀戸利昭君） はい、それじゃあ後ほどよろしくお願いします。

もう一点、同じくその下の委託料の浄化センター維持管理業務等委託料、12業務を委託しているということでしたが、主なところを三、四件挙げていただけたらと思います。

水道部次長（土屋光史君） 井原市公共下水道処理施設維持管理業務、これにつきましては浄化センターの運営等を委託しておるものでございます。産業廃棄物処理委託業務、こちらにつきましては浄化センターにより発生した汚泥等の運搬業務を委託しているものでございます。産業廃棄物処理委託、こちらにつきましては浄化センターで発生した汚泥を運搬したものを焼却処分をしているものでございます。

委員（簀戸利昭君） 運営全般と産業廃棄物、要は汚泥とかの処理で運搬する業務と、最終処分というか、処理をしてしまう業務ということで理解すればよろしいですか。

水道部次長（土屋光史君） はい、そのとおりでございます。

委員（簀戸利昭君） 終わります。

あと、水道光熱費の水道代と電気代がもし分かれば、後で結構ですのでお知らせください。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第8号 令和元年度井原市産業団地開発事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

水道部次長（土屋光史君） 先ほどの簗戸委員からのご質問でございますが、352ページ、施設管理費、355ページ、需用費の光熱水費の内訳でございますが、浄化センター電気代3,799万9,495円、水道代113万1,381円でございます。

〈認定第9号 令和元年度井原市美星地区畑地かんがい給水事業特別会計歳入歳出決算について〉

〈歳入歳出全般〉

委員（多賀信祥君） 受益戸数が1,009戸ということですが、地方自治法第233条第5項の規定による施策の成果に関する説明書のほうは1,007戸なんですけど、この差は何か。教えていただければと思います。

美星支所長（伊達卓生君） 失礼しました。1,007戸の読み間違いです。

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 認定〉

〈認定第13号 令和元年度井原市水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 可決及び認定〉

〈認定第15号 令和元年度井原市工業用水道事業会計剰余金の処分及び決算の認定について〉

〈歳入歳出全般〉

〈なし〉

〈討論〉

〈なし〉

〈採決 可決及び認定〉

委員長（藤原浩司君） 以上で付託案件の審査は終了いたしました。

なお、委員会報告書の作成につきましては、委員長にご一任いただきたいと思います。

〈異議なし〉

委員長（藤原浩司君） 閉会に当たり、執行部で何かございましたらお願いいたします。

副市長（猪原慎太郎君） 閉会に当たりまして、一言ご挨拶を申し上げます。

委員の皆様方におかれましては、昨日からの2日間にわたりまして慎重にご審議をいただきまして誠にありがとうございました。また、今議会を通じて皆様からいただいております様々のご意見、ご提言につきましては、今後の市政に反映をしていきたいと思っております。

決算審査意見書の中にもありますように、令和元年度は引き続き平成30年7月豪雨災害からの復旧工事を最優先したことや、年度末から発生しておりますが、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、一部事務の執行保留、また繰越しも余儀なくされたところでございます。そうした中ではございますが、保育料の無償化、子ども医療費の無償化の対象範囲の拡大、それから四季が丘団地の企業用地の調印、稲倉産業団地の契約締結といった主要事業にも取り組むことができたところでございます。ただ、今後少子・高齢化をはじめとする様々な要因によりまして、本市の財政状況はますます厳しくなることが予測をされているところでございます。そうした中にありましても、経費の節減、可能な限りの特定財源の確保、さらには事務事業の見直し、そういったものも含めまして、選択と集中によりまして第7次総合計画の着実な推進につなげていきたいと思っております。委員の皆様方には引き続き深いご理解とご協力をいただきますよう深くお願いを申し上げます。2日間にわたりまして大変お世話になりました。本日はありがとうございました。

〈議長挨拶〉

委員長（藤原浩司君） 以上で予算決算委員会を終了いたします。2日間、皆さん大変ご苦勞さまでした。